



建第922号
平成20年10月10日

国土交通省道路局長 様

南箕輪村長 唐 木 一 直



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成20年9月19日付国道企第37号にて依頼の標記については、別紙のとおり提出します。

連絡先

南箕輪村 建設水道課

松澤 伸夫

TEL 0265-72-7104

（内線165）

FAX 0265-73-9799

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

長野県南箕輪村

道路特定財源の問題は、昨年末から今春にかけて一般財源化や暫定税率の廃止についてさまざまな議論をよび、地方自治体ばかりでなく国民生活にも大きな混乱をもたらしました。これは公共事業を削減することにより、道路特定財源から一般財源化できる財源が生まれ「少子高齢化対策、医療費など社会保障費」にも充てることができ、自動車業界や石油業界などからは「自動車重量税の廃止や暫定税率の削減」を、また「道路特定財源の本来の目的に使うべき」など入り乱れた議論が続けられました。

しかし、人口が密集している大都市と地方では住民の生活環境が大きく乖離しています。例えば、大都市では交通機関、交通網が充実しているのに対し、地方は主要交通機関が縮小廃止傾向となり、自家用車は1人1台の傾向になりつつあります。また、道路の目的や活用方法についても大きな相違があります。例えば、伊那谷と木曽谷の中間点を結ぶ伊那木曽連絡道路の開通は、首都圏や中京圏からの観光客の増加や主要幹線道路の代替としての機能ばかりでなく、地域住民の就業、購買、医療面など伊那地域と木曽地域が一つの生活圏として生まれ変わっています。中でも伊那中央病院では、近年産婦人科医の減少により里帰り出産の受け入れができなくなりましたが、この伊那木曽連絡道路が開通したことにより、伊那谷から木曽病院への受け入れが可能となっています。このように、住民密度が低い中では、広域的に連携していくことが生活基盤であり、車と道路に依存する事は、そのエリアを有機的に結合するためであり、また自らの生活手段でもあります。

政府は平成 21 年度から道路特定財源を一般財源化する基本方針を出しましたが、地方では必要な道路の整備を求めている、この整備に要する財源の確保を強く要望するものです。

②-1 地域の現状と抱える課題

長野県南箕輪村

○現状

本村は、伊那谷の北部に位置し、西に中央アルプス、東に南アルプスを望み、伊那谷で最も広い田園地帯と山岳地帯で構成しています。

本村を取巻く道路状況は、南北線には中央高速自動車道を始め6路線と恵まれ、平成18年2月には伊那谷と木曽谷を結ぶ伊那木曽連絡道路も開通しております。また、国道153号伊那バイパス道路改良事業が開始し、通過交通量の増加に伴う渋滞の解消が図られるものと期待しています。

村内の道路状況は、狭隘の道路が多く交通事故も増加傾向にあることから、生活道路の拡幅や道路側溝、また歩行者の安全を確保するための歩道設置など、新設の要望が多く出されています。

○課題

①伊那谷の幹線道路は、南北には整備されつつあるが、この幹線道路を東西に結ぶ幹線道路が少なく本来の機能を果たしているとは言えない。

②天竜川の明神橋は、昭和30年代に建設され、老朽化と狭隘で車のすれ違いができない。橋梁管理者は対岸の伊那市となるので本村では架け替えの要望を出している。しかし、行政が異なる場合には行政の施策が異なるため進展しない。国での対策を要望する。

③伊那木曽連絡道路が開通し、国道361号の交通量も増加傾向にある。しかし、本村の国道361号は、直線であり西から東へ向い緩やかな下り勾配となっているため速度超過を懸念している。したがって、沿線住民等の安全を確保するため、歩道の設置を要望している。

④JR飯田線の踏み切りの拡幅について、地元の切実なる要望も取り入れていただけない。国からの指導を要望する。